

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092100043		
法人名	株式会社 さくらメディカル		
事業所名	グループホーム潮風ひだか	【ユニット名:さざなみ】	
所在地	和歌山県日高郡日高町小池23		
自己評価作成日	平成23年12月30日	評価結果市町村受理日	平成24年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で入居者様の役割、楽しみが持てるような介護を心がけている。 理念に沿った介護が出来るよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3092100043&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成24年1月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1階と2階の各ユニットのリビングの窓の外には田園風景と地域の山の景観が広がり季節の移り変わりが感じ取れる。開設後1年のホームであるが、日高町の端に位置し、境界を挟んで美浜町側に同法人のグループホーム・認知症対応型のデイサービスの事業所が隣接しており、今までの経験を活かして、大正琴の演奏や喫茶レクリエーション等の行事についても、事業所間で連携して取り組んでいる。運営推進会議についても法人事業所が合同で行い、近隣の4つの町の担当職員や地域包括センターの職員にも参加を呼びかけている。敷地内には畑があり、季節の野菜を育て、収穫した野菜が食卓に出されることもある。入居者がゆったりくつろげるような関わりを心がけ、心地よい暮らしを支援できるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ご利用者を個人として尊重し、安心と尊厳のある生活を実現します。 ・ご利用者が安全に衛生的な環境で生活できるよう支援します。 ・ご利用者の主体的な活動、決定が行えるよう支援します。 ・ご利用者が地域社会の一員として生活できるよう支援します。 ・ご利用者が地域社会の一員として生活できるよう支援します。 という理念の基、職員で理解し共有することでより良いケアに向けて取り組んでいます。	法人の理念をそのまま活用している。職員は、理念の「ご利用者を個人として尊重し」の所を特に大切にケアにあたっている。	入居者や家族も共有できるよう、親しみやすい理念を作ることで、グループホームでの暮らしの共通認識が深まることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各地域での敬老会や近隣の保育所での行事に参加させて頂いております。	周辺に民家も少なく自治会にも加入していないので近隣との付き合いはあまりないので、隣のグループホームやデイサービスに遊びに行くことが地域住民との交流になっている。近くの保育所の行事に招待され参加することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の方に認知症の人の理解をして頂けるような研修会を考えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設より2ヶ月ごとに実施し会議の内容をまとめた報告書を作成し、職員間で共有して取り組んでいます。	隣接する同法人の事業所と合同で開催している。本人・家族・4町の担当者や地域包括支援センター職員、婦人会、近隣住人がメンバーになっているが法人外部のメンバーは出席が少なく、意見を集める場として十分活用できていない。	外部のメンバーが参加しやすいようなテーマを設定したり、市町村の担当者にもさらに働きかけ、外部の意見を活用できる会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町村の担当者に入居者様や事業所の現状又は問題点等を連絡、相談しています。	市町村との連携は法人の担当者を通して行われている。複数の市町村からの入居があり、運営推進会議では、日高町、美浜町、由良町、日高川町の担当者や地域包括支援センターの職員もメンバーとして話し合える場としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画に議題を組み込み、職員が十分に理解できるよう取り組んでいます。また、契約時に身体拘束をしない旨を説明し同意を得ています。	身体拘束をしないケアを職員間で認識し共有できるよう取り組んでいる。日中は玄関に鍵をかけず、職員で見守って対応している。言葉による拘束にも気をつけ、「ちょっと待って」の言葉で自由を妨げていないかにも気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても年間研修計画に組み込んでいます。虐待を見過ごすことがないように、日々のケアの中で身体状態の異常がないかを観察しています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村の担当者に権利擁護、成年後見制度に関する研修をしていただき、職員の理解が深まるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人様や家族様に不明な点がないか確認し、十分に説明をして納得していただくから同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や家族様が気軽に会話ができるよう、日頃から関係、環境作りに努めています。 また、Eメールで家族様と連絡を取り合うなどし関係作りをしています。	誕生会等の行事に家族の参加が得られるように働きかけ、家族の訪問時には入居者の毎月の様子を報告し、意見が聞ける機会を作るようにしている。訪問時以外にも随時電話やメールで、連絡を取り合うように努めている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議の中で「ユニットに対しての要望」という名目で職員の意見を聞き、ユニットに反映できるよう努めています。	月に1回のユニット会議で職員の意見を聞いている。また、会議の前に意見を記入する用紙を渡し、その内容についても話し合っている。2か月に1回の法人会議には管理者を通してユニット会議で出た意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に応じた役割分担をし報告や評価をこまめに行い、役割や努力に応じた福利厚生制度を設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に際して職員の勤務調整を行ったり、実践者研修、管理者研修への参加を推進し資金援助を行い、職員の知識向上に積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所の方と互いに行き来し交流を図っています。また、本社の理学療法士の方に介護職員に向けた研修を定期的に行い、他事業所の方にも参加を募り交流しています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を行うことで困っていることや不安に思っていることに耳を傾け、求めていることを受け止め本人の安心を確保できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居までの間に不安なことや要望等を聞き出せるよう密に連絡を取り合い関係づくりができるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居、相談の際には本人、家族のニーズを見極め適切なサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を尊重し普段の生活の中で多くのことを入居者様から学び、互いに支えあう気持ちで接するよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日会に家族様を家族の方を招いて一緒に祝ったり、普段の生活の中で協力を得ながら本人を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来られた際、ゆっくりと過ごしていただけるよう心がけています。また、入居者様のなじみの場所に出かけたりしています。	複数の地域からの入居者が生活しているので、それぞれの入居者が以前住んでいた町に出かけてできるだけ地域の敬老会に参加できるよう支援している。祭りの時には獅子舞に来てくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者様同士がコミュニケーションを図りやすいよう職員が間に入ったり、同じ空間を共有できる時間をつくるよう努めています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居者様の顔を見に行ったり、家族様の相談にも応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と十分にコミュニケーションを図り信頼関係の中で思いが聞き取れるように努めています。	入居者とのコミュニケーションをはかり、入居者の思いに沿えるよう勤めている。個々の入居者の様子は個別のファイルや業務日誌等に記録するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から今までの生活歴や環境等の情報を収集し、本人や家族様の意向を生活の中で実現できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の家族様や周りの方々から情報を収集し趣味や趣向を取り入れ、メリハリのある生活を継続できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の意見を取り入れ計画書を作成し随時ケアカンファレンスを行い、状態の変化に対応できるよう努めています。	計画作成にあたって本人・家族と話し合っている。変化に合わせて随時検討し、状況に合った計画に変更するとともに、変化がない場合も3カ月に1回モニタリングを行い見直している。新規の入居者は1ヶ月後に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を基に申し送り時に職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅や行きたい場所へ職員と共に出かけたり、病院受診の援助も行っています。また、家族様と一緒に外出されたりしています。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアの方にお越しいただき、残存機能を活用できるよう協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様が希望される主治医に依頼し、定期的な訪問診療や受診を実施しております。	それぞれの希望のかかりつけ医にかかっている。家族が受診に付き添えない時には受診を支援し、入居者の状況を医師に伝え、受診結果は家族に伝えている。定期的に主治医の往診を受けている入居者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師が日々の情報を共有し、日頃より主治医に連絡、相談をして健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、医療スタッフと情報交換を行い連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた方針の説明を行っていますが、身体状況の変化により、その時点で出来ること、出来ないことを家族様や主治医と連携を図りながら取り組んでいます。	看とり介護の同意書は家族とかわしているが、医療行為が必要な場合は入院となることが多い。ターミナルの対処については看護師から指導をうけて、事業所でできることは行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日高広域消防本部の協力で応急手当を学習する機会を設けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日高広域消防本部の協力で火災時の避難訓練を定期的に行っております。また水害時には近隣住民の方に互いに協力していけるよう働きかけています。	夜間想定火災訓練を入居者も参加して行っている。昨年の台風12号の水害時には駐車場まで水が来たので、入居者に不安を抱かせないように配慮した。周囲は田園地帯で、水害時に孤立しないよう区長を通して地域に働きかけている。	

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は周知徹底し、対応については一人ひとりを尊重した声掛けを実践しています。	排泄や入浴時には入居者の羞恥心やにも配慮し、プライドを損ねないよう心がけている。入居者の名前は原則苗字に「さん付け」で呼んでいるが、本人や家族の希望を踏まえ状況にあわせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で畑仕事や花の手入れ、調理等入居者様のしたいことができる時間を多く取り入れています。入浴、食事も本人の希望する時間帯やペースに合わせています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段より入居者様の希望を聞き、出来るだけ希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方にはお化粧の支援をしたり、男性の方には髭の手入れを支援したり等、本人様の望む身だしなみができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を聞き、献立に取り入れています。料理が好きな方には積極的に参加していただき楽しみの一つとして支援しています。	陶芸教室で作った茶碗や湯飲みを使用し、菜園で収穫した野菜も使い、職員と入居者が和やかに食事できるよう取り組んでいる。準備に加わる入居者は殆どなく、食事前の時間帯には1階で2ユニット合同のレクリエーションが行われている。	食の楽しみが感じられるよう準備から片付けまで、入居者ができることをケアの一環として取り入れ、自信と意欲を持った暮らしができるような取り組みに期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく様々な食材を使用したメニューを献立に組み込み、栄養バランスが偏らないよう努めています。また、水分や食事量を職員全員が把握できるよう毎回チェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕に口腔ケアを実施しております。		

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄時の残存能力を見極め排泄パターンを把握し、パターンに沿った誘導を行い自立した排泄支援を行えるよう努めています。	記録を取り、入居者に合ったタイミングをみて声かけをして排泄の自立に取り組んでいる。失敗したときは、一緒にトイレに入ってさりげなく支援し羞恥心に配慮し尊厳を損ねないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1800ccを目標にし水分摂取を促し、体を動かすレクリエーション等を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望される時間に入浴が実施できるよう支援しています。	希望の時間に入浴できるよう支援し8時ごろまでなら夜間の入浴にも対応できている。入浴を嫌がる場合にはさりげなく声かけをして誘導している。入浴しない人には清拭の支援もしている。リフト浴が必要になれば1階で対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠られない方にはお茶を勧めたり会話をし落ち着いて過ごしていただけるよう支援しています。また、居室で眠りにくい方にはリビングでの入眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況一覧表を作成し職員一人ひとりが内容を理解し間違いのないよう管理しています。また、薬に関して異常があれば薬剤師や主治医に相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や調理、生け花等思い思いの時間を過ごされています。家族様の了解の基、お酒を楽しまれる方もおります。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的にドライブや買い物等で外出する機会を設けています。また、家族様と一時的に帰宅されたりしています。	月に2~3回希望者みんなでドライブ等の外出を行っている。月に1回程度は個別の外出の希望にも応じることがある。車いすの入居者にも出来るだけ外に出ていく機会を作るよう配慮している。	

【事業所名】グループホーム潮風ひだか ユニット名:さざなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了解の基少額の小遣いを本人が所持管理し、買い物時には本人の欲しい物を買えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族様や知人の方と電話で話をされたり、手紙を書いて送ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや居室内に温時計を設置し室温には常に注意しています。また、周りの田んぼや畑に植えた桜の木で季節感を感じていただけようになっています。	生け花の得意な入居者が活けた花が飾られている。居間の壁には入居者の塗り絵の作品が、廊下にはスナップ写真は貼られている。リビング内の畳のスペースでは洗濯物を畳んだり、横になったりすることができる。	部屋の装飾や調度品を工夫して、家庭の延長、入居者の住まいとしての安心感や居心地の良さが感じられる生活空間となる事が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのリビングの畳で昼寝をされています。ソファやテーブルの配置を変え入居者様が落ち着ける空間作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や家族様の写真等を持参していただき、少しでも落ち着いて生活できるよう工夫しております。	部屋の入り口には、入居者の名前を書いたプレートが掲げてあり、室内には入居者のなじみの持ち物が配置されて、居心地の良い居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動や入浴、排泄等の際、本人の残存能力が十分活かされるよう工夫し介助をしています。		